

評議會の指導による英國労働者の總罷業が新舊した英國は資本主義の先
進國であること、労働運動が日進主義者改良主義者による指導を以てた
ことを以て知られるた國であるが英國帝國主義の同志による資本の攻撃と
労働階級の生活悪化とは英國労働者の階級意識を鮮明にし、一九二一年の
暗の全曜日一の経験は坑夫の生活悪化であること、小自覚と共に遂に全團反坑
資本家の坑夫攻撃に討て、英國全労働階級と總罷業を以て答へしめた
のである。然し政府、資本家の組織的、計画的、積極的有労働階級攻撃に討て
る黨及び、左翼一指導者の無活動と象切と降服とは遂に總罷業を敗北に終ら
しめたのである。この故に英國總罷業、敗北は右翼及び、左翼一指導者の無
活動と象切と降服とにあるの心印である。改良主義的、指導者の敗北
心印は總罷業の無力も亦労働階級の全階級の團結の無力も何れも其の
心印である。此の英國總罷業の敗北と、洪私筆談の敗北とを更へたことか

言へる、英國の場合には大多数の労働階級が資本家階級の最大な大衆は階
級の連帯責任に感入るたに反し組合總評議會の指導者の象切と降服と
敗北した心印は洪私の場合には洪私表一は一評議會に付か、身談に
連帯責任を感入るたに反し他の労働団体に及ぶ組織労働者及一職
業組織大衆は何等連帯責任を感入なかったことか敗北の最大な原因である。
之は洪私一表一も事であるが事實である。たか或は反問する心印である。色々
の團體から激励電報が来た心印は否かと。然し激励電報は悪い心印は否か
其の階級の連帯責任は電報だけか全部ではないか。否、寧ろ激励電報は
第二義的である。五水より所管することには物質的、精神的に身談を援助す
る心印である。

一労働団体に和へられた壓迫は全労働階級に和へられた壓迫であること、全労働
階級が資本家に反対して立つことである更に平易に云へば労働階級が資